

モルドバ独立 20 年祭・帰国報告ツアー

平成 23 年 8 月 4 日会場：学習院女子大学 13:00～18:00

チェルノブイリ原発 25 周年を機に振り返るモルドバ共和国の農村の子供たち

—カザネシュティ村の子供デイケアセンターの現状と将来への展望—

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程 川村 容子【帰国報告概要】

はばたく

1991 年モルドバ独立

モルドバ共和国は、1991 年にソヴィエト連邦の崩壊と共に独立した新興国家の一つであり、今年は独立 20 周年という節目の年を迎えている。

1986 年チェルノブイリ原発事故

同共和国は、1986 年に起こった隣国ウクライナのチェルノブイリ原発事故で大きな被害を受け、現在でも被爆の爪痕が残っている。

独立後経済混乱

独立後は、民主化への移行により、ソ連の統制経済の枠組みの外に置かれることになったことから、経済混乱に陥った。コルホーズは解体され、農場や工場は建物を残し機材・人材はモスクワに引き上げられた。

国外へ出稼ぎ

職を失った親の多くは子どもをモルドバに残し、国外へ出稼ぎに行かざるをえない状況となった。

特徴は高い教育水準

他方、モルドバの特徴は高い教育水準にある。アジア・アフリカとは異なり、モルドバを含む旧ソ連圏諸国の識字率の高さは 100%に近く、教育制度は整備されている。

アーティスト：武田有賀

幼少期に、工事現場の昼休み、お弁当を食べているおじさんの顔を描いて喜んでもらった事がきっかけで似顔絵を描き続け、現在は主に両生類、霊長類、古生物など「生き物」を描いている。一方、スペイン留学中には、ラテン音楽、国民楽派等のピアノ演奏、作曲、編曲も行っている。ピアノソラの編曲家、山本京子との共著出版及び、編曲協力、デュオ「ムムキ」で活動中。

絵と音楽は武田有賀さんによるものです。ラテン音楽が専門である武田さんのアレンジによる、モルドバ音楽や「火祭りの踊り」等の演奏をします。



だに・鳥・蛙・鶏・あひる・山羊・豚・わに

農村部の不登校

しかし特に農村部において子どもが不登校になるケースが多い。これには、貧困による親の国外出稼ぎが深く関与している。

1997 年モルドバ復興支援協会設立

そのような中、現地からの要請により、1997 年、神戸にモルドバ復興支援協会は設立された。

政府がしたくてもできない分野を支援

その目的は、モルドバ共和国の精神文化と経済を復興させることにあり、モルドバ政府が実施したくても経済的事情から実現できないような分野を支援している。

カザネシュティ村の子供たち

本報告ではチェルノブイリの被災状況について簡単に触れた後、カザネシュティ村において復興支援協会が支援を試みてきた子供たちの成長の様子と今後の見通しを紹介する。

知識人が支援プロジェクトを立案

具体的には、現地の事情を熟知している知識人が支援プロジェクトを立案し、それをもとに協議を重ね、実現可能なものから順次プロジェクトを立ち上げている。

展示内容
写真約 20 点
会報「モルドバドキュメンタリー 2011」の表紙絵原画約 20 点
展示時間
13:00～18:00

日時：平成 23 年 8 月 4 日（木）13:00～18:00
会場：学習院女子大学 〒162-8650 新宿区戸山 3-20-1
主催：モルドバ復興支援協会
共催：学習院女子大学
お問合せ：モルドバ復興支援協会 沓澤（くつざわ）
〒651-1132 兵庫県神戸市北区南五葉 3-2-35
電話：078-594-2785 Mail：molkor.jp@ybb.ne.jp

報告者：川村容子 東京都出身。1982 年生まれ。早稲田大学理工学部応用化学科卒。大学 3 年次の 2005 年、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）を通じてモルドバ復興支援協会に出会う。2006 年に初めてモルドバ共和国を訪問し、詩教育に感化される。以降、毎年モルドバを訪問。その後、早稲田大学大学院教育学研究科修士課程に入学。モルドバの「子どもデイケアセンター」で日本語を教え始める。モルドバでの活動と詩を通じた民族意識に関する研究が評価され、学生支援機構から奨学金全額返済免除を受ける。その資金を元に、2009 年、モルドバ人生徒の高等教育進学補助を目的とした奨学金「さくらこ基金」を自ら設立。同博士課程に進学し、2009～2011 年、ルーマニア・Alexandru Ioan Cuza 国立大学文学部に聴講生として留学。同大学で日本語教師の経験も持つ。

【帰国報告】 会場：2号館3階236教室 13:30～15:00 報告者 川村容子

【ピアノライブと写真展・原画展】 会場：互敬会館1階メインホール

ピアノライブ 15:30～16:00 演奏 武田有賀